

令和3年度自己評価結果公表シート

庄本幼稚園

I、本園の教育目標

<p>緑いっぱいの中でおもいやりのある子ども 自主性のある子ども 明るく正しく素直な心の子どもを目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につける。 自然に対する関心を抱かせる。 丁寧な保育をし、自立心を育てる。 思いやりのある子どもらしい子どもに育てる。 行事や活動から生まれる達成感や感動を体験する。
--

II、本年度、重点的に取り組む目標と計画(Plan<<目標設定>>)

<ol style="list-style-type: none"> 1、行事や活動における非認知能力の向上 2、園児のみと理解 3、新型コロナウイルス対策を主とする健康と安全への配慮 4、教師としての資質の向上
--

III、評価項目の達成及び取組状況(Do<<取組>>)

評価項目	取組み状況
1、行事や活動における非認知能力の向上を目指して	ア、子どもたちのやってみようとする気持ちを引き出せるよう、興味を引く声かけ環境構成をした。否定的、強制的にならないよう心がけた。
ア、意欲、チャレンジ力	これからの保育の説明、見通しの説明をした。
イ、協調性、思いやり、協力、	イ、うまく関わることができない園児には、まずは保育者と関わるように、周りの状況に気が付きにくい園児には声掛け、作品展では、協力して一つの作品を作ることに気付かせる、運動会では、皆で協力して一緒に頑張ることに気付かせる。相手に気持ち、思いを伝えたり協力することの大切さに気付かせる。
ウ、忍耐力、集中力	ウ、話を聞く、待つことができたことをほめる。繰り返し取り組むこと、楽器演奏やおゆうぎ、文字の勉強、縄跳びは集中力を高め忍耐力を養う。
エ、思考力、判断力	エ、頼らずに自分で考えて行動することの大切さ、何をすべきかどのように行動すれば、自分で考えるように、小さな取り組みも自信につなげていく。絵本等教材を使って園児と話をすることで、考えを引き出した。
オ、自立心、感謝の心	オ、周りの人に役立つこと、感謝、自信を持てるように見守る。目標を自ら立て、達成出来た時、共に喜び、誉める。何度も繰り返し取り組み、自信へと導く。お誕生会や行事で感謝。
2.園児のみと理解	アーa、他者との比較ではなく一人ひとりの能力目標に合わせて、また、結果よりも過程に重きを置き、子どもの気持ちになって思いやサインを見逃さないよう目配りをした。
アーa、園児1人一人を良く観察するよう心がけている。	アーb、周辺にも目を配れるよう余裕のある保育、他の保育者との連携を行う。
アーb一人の園児を見ながら周囲にも目を配る。	アーc、園児の個性を把握している。設定保育外の時間でも園児の発想や取り組み、友だちとの関わりを観察している。先入観を持たない。小さなことでも良いところを見つけられるよう日常の中で気になること、出来事をメモしてまとめて保護者に伝えている。
アーc 園児の姿を多面的にとらえる。園児の理解。	イ、園児同士の関わり方を捉えながら、トラブルがあると、なるべく子供同士の解決を目指す。両者の話を聞き適切な対応をする。きちんと向き合っている。
イ、友だちとの関わり方	ウ、一人ひとりの性格を理解し、その子に応じた声かけを、個々の良さを受け入れるよう小さなことでも良いところを見つけるよう、先入観が入らな
ウ、自分の一方的な感じや考えで決めつけない。	

3.健康と安全への配慮 ア、健康への配慮 特にコロナ対策について	ア、a.(登園時、朝の挨拶時)視診、表情、日常との比較、体調、普段の園児の顔色、体調などの観察をしている。 手指消毒、マスクの着用、保護者との連絡。 b.(保育時)マスクの着用、手指消毒の徹底、教室の換気、扇風機の使用、 c.(行事対応)行事の中止、縮小、保護者参加の制限等、保護者会と連絡をとりながら対応。
イ、定期的な健康診断 ウ、伝染性病気対策	イ、内科、歯科、眼科、耳鼻科の健康診断をしている。おたよりノートで連 ウ、手洗い、うがい、除菌等の徹底。発熱、せき、下痢等 体調不良の確認と連絡、現在流行している病気の情報収集と対応に早め に行動する。
エ、遊具等の点検マニュアルの活用	エ、年度初めに遊具の使い方を指導。毎朝の目視点検、週1回、2カ月1 回点検、遊びの指導、1か所に留まらないよう広くしっかりと目配りする。 間違った使い方には注意。 破損箇所、破損を予想される箇所の対策、
オ、避難訓練	オ、不審者対策(訓練、通報、連絡)、火災、地震避難、 自分自身の行動、安全な誘導計画を記憶しておく、
4.教師として資質の向上 ア、園児や保護者との対応は公平性を欠かさないよう	ア、感情的にならず常に冷静に話をするよう心がけている。 先入観を持たず常に新しい気持ちで、
イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち	イ、一社会人としての心構え、常識を持つよう、元気で明るい挨拶、常に 感謝の気持ちを持ちながら、
ウ、清掃や整理整頓を実行	ウ、朝夕チェック、保育準備に追われて清掃がおろそかにならないよう 気持ちよく、また衛生面でも隅の細かいところまで
エ、プライバシーに関する情報の保護	エ、プライバシーに関する情報は持ち帰らない、保管や取り扱いに気を付 ける。全て園で保管。
オ、情報の共有、職員間の協力と連携	オ、情報の交換は口頭やホワイトボード、メモ等で、困った時はクラスを超 えて相談、伝達ミスが無いように注意。
カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上	カ、自分自身勉強、研修に積極的に参加、図書館やインターネットで調べる

IV、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果(Check<達成状況の評価>)

新型コロナウイルス拡大感染渦、当園においても4年1月半ばから職員や園児が陽性に感染し余儀なく休園を行った。園児はもちろん、教諭自身の感染に気を使いながら行事や活動を行った。

取り組むべき目標や計画について、縮小しながらでも全職員が共通に理解し積極的に取り組んだ。1.行事や活動における非認知能力の向上を目指して、ア、意欲やチャレンジ力やり抜く力については、園児たちのやってみようとする気持ちを引き出させるよう興味を引く声掛けや環境構成をした。否定的、強制的にならないよう、これからの保育の説明、見通しの説明をする。繰り返し練習をすることによって自信を持つ、やり抜く力、やり遂げる力が身につく。イ、協調性や思いやり、協力については、うまく関わる事ができない園児に、まずは保育者に関わるように、周りの状況に気が付きにくい園児には声掛け、作品展では協力して一つの作品を作ることに気付かせる。運動会では、みんなで力を合わせ一緒に頑張ることに気づかせる、少しずつ形になっていく喜びや、終わった後の沢山の笑顔が見られたことは協調性、協力の大切さを身体で感じる事が出来たのであろう。ウ、忍耐力や集中力の向上については楽器演奏や縄跳びで繰り返し練習すること、集中することの大切さを身に付けたと思う。エ、思考力、判断力については、頼らずに自分で考え自分で行動するよう、出来るだけ見守るようにしてきた。オ、自立心、感謝、やりぬく力については日常の保育や行事の中で、自信を持ち、やりぬく力を身に付けるために見守りを重視し、感謝の気持ちが言葉として、行動として素直に出るように指導した。2.の園児のみと理解については、保護者や同僚の先生からの情報を得て先入観を持たないよう心がけた。常に安心感や楽しい気持ちを忘れずに子供の目線で話しかけるよう、トラブルがあれば双方の意見を平等に聞くよう心がけた。子供の自主性の尊重が時間の余裕がなく、不足した面があった。3.健康と安全について特にコロナ対策については、登園時に出来るだけ言葉かけをし、園門で手指消毒をしながら、子供の体調や顔色の観察に心がけ、保護者との連絡を密にした。保育中の部屋の換気、手洗い、うがい、消毒等にも心がけた。行事については、保護者会との調整を行い、中止にしたり、縮

V、今後、取り組むべき課題(Action<改善>)

目標の一つである行事や活動における非認知能力の向上については全職員が十分に理解し実行できるよう意識の高揚に努めなければならない。また、常日頃から園児の性格や行動の把握、理解、保育者や保護者からの情報確保に努めなければならない。当園の様に小規模園こそ実行しやすいと思われる。園児の健康と安全については遊具、施設の点検を今後も緊張感を持ち続け行い、オミクロン株感染拡大についても引き続き気の緩むことなく感染防止に努めなければならない。

VI、学校関係者の評価

昨年度を上回るオミクロン株というコロナ禍での行事や活動において、その都度考え、話し合い、簡単に中止という選択をしないで保護者の意見を取り入れながら実施してもらって感謝。家庭との連絡も適切に行われていた。子どもの個性をよく把握してきめ細かな指導も良好であると認められた。小規模園こそ可能な情報の共有化や一人ひとりに向き合ってモチベーションを上げる一言もよかった。コロナ対策は難しいと思うが、今後とも保育者自身の感染予防にも気をつけてほしい。適切な言葉かけや励ましにより非認知能力の向上は確実に、評価は概ね妥当と認められる。衛生面、安全面において、今後とも気を緩むことなく緊張感を

VII、財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。